



# 山桜

高階西中だより 第23号

平成27年12月11日

川越市立高階西中学校

## 子供たちに「確かな学力」を育成する取組を推進します⑤

～学力向上に向けた本校の取組Ⅰ（主体的に学習に取り組む態度の育成）～

校長 長井正邦

本校の全ての子供たちに身に付けさせたい「確かな学力」は、

- ① 基礎的・基本的な知識・技能
- ② ①を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等
- ③ 主体的に学習に取り組む態度

の三点です。

③の「主体的に学習に取り組む態度」を身に付けさせるために、本校では「家庭学習ノート」に取り組ませています。一日1ページ以上、取り組む教科は何でも構いませんし、その内容も漢字や英単語の書き取り練習から、その日の授業の復習まで何でも構いません。提出されたノートは、教職員が協力して全てその日のうちにチェックして返却します。

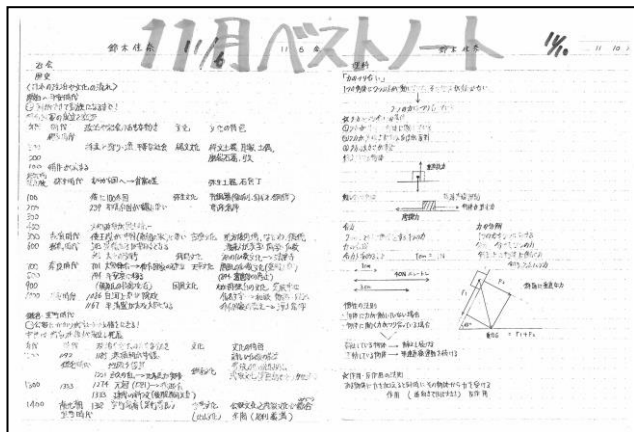
この取組では、子供たちが毎日続けることを重視しています。子供たちが毎日続けることで、子供たち自身の学習意欲を引き出そうと考えています。

さらに、一か月間毎日提出した生徒には「完璧提出賞」、取り組んだ内容やノートのまとめ方が他の子供たちの参考になるものには「ベストノート賞」などの表彰を行い、子供たちの学習意欲を一層引き出そうと考えています。

実際、学年を追うごとに取り組む内容も量も充実してきています。

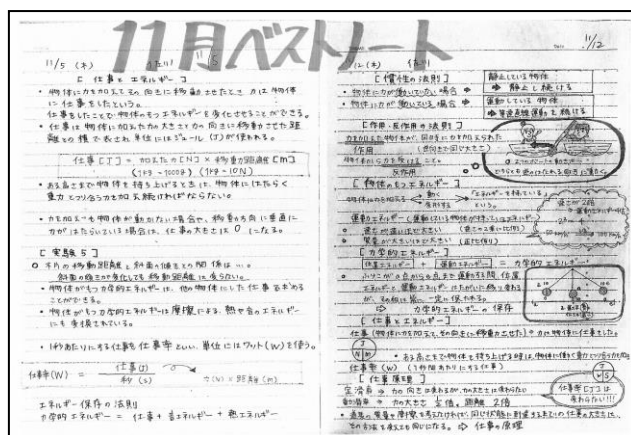
3年間の積み重ねにより、3年生のベストノートは取り組む内容や量がとても充実しています!!

### 3年生11月「ベストノート賞」の一部



←3年1組 女子

社会「日本の政治や文化の流れ」  
理科「力のつり合い」について、授業で学習した内容を年表や図などを用いて、自分なりに分かりやすくまとめ直しています。



↑3年2組 女子

理科「仕事とエネルギー」「慣性の法則」などについて、授業で学習した内容をイラストや図を用いて分かりやすくまとめています。

←3年3組 男子

英単語の練習を、ノートびっしり記入しています。

一人一人の学ぶ意欲を引き出し、自己肯定感を高めるための取組を推進します！

本校では、子供たち一人一人が現時点での力を知り、授業や家庭学習等に本気で取り組んだ結果「どれだけ自分が伸びたか」を実感し、自信を深めていくことを大切にしたいと考えています。

そして、自信を持った子供たちが、「自分をさらに伸ばし、自分のよさを活かしていける」ような教育を推進しています。

**2年男子 1500m走記録 (一部)**

「自己ベストタイム」上位者			「自己の伸び=短縮時間」上位者		
No	氏名	記録	No	氏名	短縮(秒)
1	****	4' 51	1	****	67
2	****	5' 20	2	****	43
3	****	5' 25	3	****	40
4	****	5' 28	4	****	38
5	****	5' 31	5	****	35
6	****	5' 32	6	****	30
7	****	5' 33	7	****	23
	****		8	****	21
9	****	5' 37	9	****	17
	****		10	****	16
11	****	5' 38	11	****	13
12	****	5' 39	12	****	11
13	****	5' 42	13	****	10
14	****	5' 44		****	
	****			****	
			16	****	6
			17	****	5
				****	
				****	



※紙面の都合上、2年男子の一部のみ掲載します。

左の表は、「陸上競技 長距離走」の授業(9時間計画扱い)を実施した際の「自己ベストタイム」上位者の一覧です。どの記録も、1500mという距離をしっかりと走り遂げた成果として大変立派な記録です。本校では、この自己ベストタイム一覧に加えて、右の表も大切に考えています。9時間の授業を実施する中で、自分の記録がどれだけ短縮できたかを「自己の伸び(成長)」と考えさせて、一人一人に自分の成長を実感させるようにしています。

例えば、保健体育科では、11月に「陸上競技 長距離走」の授業に取り組みました。

中学生の時期ともなると、一般的に長距離走はつらいもの避けたいものという印象が強い競技です。しかし、本校では参加する全ての子供たちが毎回意欲的に授業に臨み、本気で記録に挑戦しています。

なぜ、子供たち一人一人のやる気を高めた授業をきちんと実施することができるのでしょうか。

その理由の一つに、「常に自己ベストを目指し、記録の向上に励もう！」という保健体育科の指導方針があるからだと思います。

初回の授業で、各自に現時点での走力を確認させ、二回目以降の授業では、一人一人がそのタイムを基準として自己ベストを更新することを目標に取り組みます。

子供たち一人一人が「自分の伸び=短縮タイム」を意識することにより意欲を高めながら、授業に臨んでいます。さらに、担当教師が個々の状況に応じた指導助言を行っていることが大きく影響しています。

**一人一人に「自分の伸び(成長)」を実感させ、自信と学習意欲の醸成につなげる取組を推進します！**

**「頭がいいね」と「よく頑張ったね」…どちらのほめ方が効果的か？**

アメリカ・コロンビア大学が行った「ほめ方」に関する研究を紹介します。

子供たちを2つのグループに分け、第1回目のテストを実施しました。テストの結果がよかったときに、一つのグループには「あなたは頭がいいね」と「子供のもともとの能力」を称賛するメッセージを伝え、もう一方のグループには「あなたはよく頑張ったね」と「子供の努力」を称賛するメッセージを伝えました。その後、問題の難易度を上げて第2回目のテストを実施し、改めて第1回目と同じ難易度のテストを第3回目として実施しました。

すると、もともとの能力をほめられた子供たちは成績が下降し、**努力をほめられたグループは成績が上昇しました。**

もともとの能力をほめられた子供たちは、よい結果は自分に才能があるからで、悪い結果は自分に才能がないからだとする傾向があったそうです。努力をほめられた子供たちは、テストに粘り強く取り組み、問題に挑戦し続ける姿勢が見られ、悪い結果に対して、もっと努力が足りないからだとする傾向があったそうです。

研究は、「子供をほめるときには、もともとの能力ではなく、具体的に達成した内容を挙げるのが重要である。そうすることによって子供自身のさらなる努力を引き出せる。」とまとめられています。

学校教育目標  
**自ら考える生徒**